



株式会社 玉川文化財研究所

埋蔵文化財発掘調査、出土品整理・報告書作成、各種分析の総合企業





ご挨拶



遺跡発掘調査専門企業のパイオニアとして 柔軟かつ精度高く発掘調査を行います

株式会社玉川文化財研究所は、1980年に設立して以来40年以上にわたり埋蔵文化財発掘調査を中心に活動してまいりました。

設立当時、会社組織で遺跡発掘調査をしている団体はほとんどないなか、調査員の社会的安定を目指し、調査員5～6名で発掘調査会社を始めました。今日では調査従事者20名をはじめ、出土品整理、報告書刊行などに従事するスタッフ合わせ約40名にまで増え、業務にあたっております。

現在の活動は主に神奈川県を中心に県下の市町村や民間企業様からの調査依頼を請け負っており、年間を通じて10～20か所の遺跡調査を行っております。開発事業が今後も続いていく限り当社の社会的意義は薄れることなく、事業も安定的に続いていくと確信しており、埋蔵文化財発掘調査を通じて地域に根差した考古学研究の発展に寄与する存在でありつづける所存でございます。

代表取締役

相原 俊夫

会社概要

名 称	株式会社玉川文化財研究所
代表取締役	相原 俊夫
本社研究所	〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川一丁目8番地の9
電 話 番 号	045-321-5565（代表）
FAX 番 号	045-321-5855
E - m a i l	tamagawabunkazai@tamabunken.com
U R L	https://tamagawabunkazai.co.jp
設 立	昭和55年12月
業 務	埋蔵文化財発掘調査・出版
職 員 数	45名
資 本 金	10,880,000円

玉川文化財研究所設立者 戸田哲也の略歴・業績

1947年北海道生まれ。2022年逝去。1954年に玉川学園小学部に入学し、学園に着任されていた浅川利一のもとで遺物の表面採集や発掘調査を小学生時代から経験する。成城大学大学院では山内清男と佐藤達夫に師事し、縄文土器および縄文時代を中心とする先史考古学の研究を精力的に進めた。学生時代は田端環状積石遺構をはじめとする町田市域の遺跡調査を実施したほか、日本各地で行われた調査に参加。

1980年に株式会社玉川文化財研究所を創立し、代表取締役社長に就任する。以後、研究所による各時代の発掘調査および報告書作成を主導し、約650冊に上る報告書を刊行した。また、1989年に全国の研究者からなる縄文時代文化研究会を、中核メンバーの一人として立ち上げ、雑誌『縄文時代』の継続的な刊行に尽力した。2005年には日本文化財保護協会の初代会長に就任し、埋蔵文化財業務と考古学研究の発展に寄与した。

研究業績は、著書、論文、市区町村史、概説、辞典、学会・シンポジウム等発表、埋蔵文化財関連、学界動向、エッセイなど多岐にわたり、その数は実に230に及ぶ。自らが調査に関わった町田市「田端環状積石遺構」（1971年・東京都史跡）、岐阜県高山市「堂之上遺跡」（1980年・国史跡）、相模原市「田名向原遺跡」（2007年・国史跡）は、史跡に指定されている。





玉川文化財研究所とは

発掘調査、出土品整理、報告書作成を一貫して行う数少ない民間企業です

玉川文化財研究所は主に神奈川県を中心として埋蔵文化財の発掘調査、出土品整理、報告書作成を専門に行う民間企業です。

開発事業や道路整備事業などに関連した事前調査を行い、発見された遺跡の発掘調査から出土品の整理、報告書作成を速やかに実施します。

埋蔵文化財の保護と活用の意義

当社は昭和55年の設立から神奈川県を中心に旧石器時代から近代まで、実に幅広い年代の遺跡発掘調査に携わってまいりました。

そのなかには旧石器時代の住居状遺構を検出した相模原市「田名向原遺跡」や弥生時代中期中葉の大規模集落を調査した小田原市「中里遺跡」など、全国的に見ても希少な遺跡が含まれています。設立以来多くの調査を重ね、関係各所との信頼関係を築かせていただき今日に至ります。



相模原市「田名向原遺跡・住居状遺構」
後期旧石器時代、1997年調査（1999年1月に国史跡に指定）



小田原市「中里遺跡調査風景」裏表紙に掲載した遺跡
弥生時代中期中葉、1998～1999年調査（2019年に神奈川県重要文化財に指定）

業務内容



残す

遺跡・考古資料は、過去の人々の社会や生活を復元・解明する上で重要な意味をもっています。開発で失われてしまう遺跡の発掘調査をまっとうすることで、記録保存による成果を後世に残します。

究める

遺跡の内容が記録された発掘調査報告書は、研究者によって考古学的な基礎資料として活用されます。報告書に記載された新知見が、学問の進展をもたらし、報告書の一冊一冊が、地域研究の資料として重要な役割を果たします。当研究所では、報告を終えた遺跡を取り上げ、他の調査事例を加えて考察し、発表する場として、研究紀要『神奈川を掘る』を定期的に刊行しています。

伝える

地域に特徴的な遺跡を調査した場合には、管轄の教育委員会が主催する遺跡見学会の開催協力を行います。国民共有の財産である遺跡の最新情報を発信することで、遺跡調査への理解が深まるきっかけとしたいと考えています。

民間埋蔵文化財調査組織として

埋蔵文化財保護に資する当社の取り組み

昭和40年頃からの全国的な大規模開発に伴い、各地で事前調査が激増しました。昭和50年以降には、行政内調査体制の整備が推進されていきます。その数年後の昭和55年に玉川文化財研究所は設立され、当初から記録保存に関わるすべての業務を自前で行ってきた最古参の民間調査組織です。今日までの40年間に、年間の調査件数や依頼業務の種類、調査技術、現場の安全管理体制などが様変わりし、変化の荒波に翻弄されつつも乗り越え、現在に至っております。

こうした変化の中で、我々が一貫してきた埋蔵文化財保護への取り組みは、記録保存、遺跡見学会・発表会・講演会への参加協力、そして研究への展開の3本の柱からなります。

記録保存は調査組織にとって要となる業務であり、発掘調査と整理作業、報告書刊行の3部門に分けられます。発掘調査は、現場ごとに考古学的知識と調査経験をもつ調査主任を中心とした作業チームによって進められます。調査主任には、調査実務だけではなく、現場の安全管理、そして行政サイドとの窓口となり調整・連絡を日々行うことが日常業務として求められます。



このような調査実務以外の業務負担を軽減し、円滑な現場運営を行うために、安全管理や行政との調整役を職務とする者が、神奈川県内に常時5～6ヵ所ある発掘現場を巡回して調査主任をサポートします。加えて、各時代に精通した考古学的専門知識をもつ経験者が遺構・遺物について助言し、どの時代にも対応できるよう、社内での支援体制が整えられ、調査員は調査技術者として育成されていきます。

調査で出土した遺物は、洗い・注記班の元に運び込まれ、調査終了と同時に調査員が分類を開始できるよう段取られます。接合・復元・拓本・実測の基礎整理は分業化され、経験を積んだ専門スタッフが作業を進めます。調査員はできあがった成果物を確認し、遺構・遺物の原



稿を執筆、報告書としてまとめ上げる役割を果たします。

そして編集担当者が編集ソフトを駆使して図版と原稿を組み上げ、報告書の体裁に整えて、印刷所に入稿し、刊行に至ります。

こうしたシステム化されたあり方は、40年間に培われた組織力に支えられ、デジタル化や考古学の進展によりさらに進化しつつあります。

現在、業務の主な依頼元は神奈川県・県内市町村・民間企業の3者です。このうち、県事業の業務は法92条調査として神奈川県教育委員会文化遺産課による厳しい監理のもとで進められており、発掘時には週に1度、整理作業では月に1度の周期で、作業進捗や成果物の確認が行われます。また、入稿前には複数回に及ぶ査読が行われ、記述内容の確認がなされます。このようなあり方は、文化庁平成8年通知による、民間活用の行政サイド監理指導体制にもとづくものであり、神奈川方式ともいえる体制が実現化されています。

こうして作り上げた報告書は、直近の3年間では、年間に県事業3～5冊（総頁数400～850頁）、市町村委託や民間開発に伴う事前発掘等7～11冊（総頁数1000～2000頁）を数え、全国の調査機関や大学等との間で図書交換を行っています。

遺跡見学会は、地域に特徴的な遺跡を調査した場合に開催協力を行ってきました。また、神奈川県では年間30回を超す考古系発表会・講演会等が行われており、発表資料の作成と参加協力は調査員の年間スケジュールの一つとなっています。

そして2015年以降新たに取り組んでいるのが、研究紀要「神奈川を掘る」の刊行です。自らが調査した成果を、考古学研究に止揚することを目的としています。現在までで5冊（Ⅰ～Ⅴ）を上梓しています。

民間発掘調査会社では「考古学と埋蔵文化財」の関係はどうあるべきか

考古学という学問は、埋蔵文化財の発掘調査と記録保存によってもたらされる新知見をもとに進展を遂げてきました。そしてその学問的成果を学ぶことで、新たな問題意識をもった遺跡調査の実施や報告書の作成が可能となり、結果としてより充実した調査成果をあげることができます。考古学と埋蔵文化財はまさに相互に影響し合う関係といえます。

一方で、記録保存の調査は、学問的命題に端を発する学術調査とは異なり、開発行為を契機として行政的に実施されます。そのために多くの場合、遺跡調査を限られた時間と予算の中で全うしなければなりません。

そうした中で調査担当者に求められるのは、千差万別の遺跡と向き合い、遺跡の特徴と重要ポイントを早期に見極めるという、調査経験と考古学的知識に裏打ちされた判断力です。その判断力をアップデートするためには、考古学的成果や、研究動向を吸収することに努めなければなりません。もちろん、迅速かつ精度の高い記録保存のため、発掘調査技術や報告書作成能力の向上を目指すことも重要ですし、遺跡保存も念頭に入れた、設計変更の模索など行政側との協調も欠かせません。

史跡整備等の活用が推進され、発掘調査の実施に民間活力も組み込む体制が機能するなかで、調査員にはそうした調査能力を研鑽し続けることが望まれます。

民間調査組織は、2005年に行政と対等な立場で話のできる団体を目指し、全国約80社の集合体として日本文化

官民学一体の考古学発展を願って

民間調査組織は埋蔵文化財保護行政の一翼を担い、役割を果たしてきた歴史があります。

埋蔵文化財の調査指導や、遺跡の保護・活用に関する先導的な役割は行政側にあります。しかし遺跡の発掘調査は、考古学的手法にもとづく技術を習得した人物が実施するものであり、その観点において「行政」「民間」の区別は存在せず、遺跡調査や考古学について語るときは同じ目線といえます。

社内には、日々発掘調査と整理業務に立ち向かう調査員たちの姿があります。積み重ねた経験に基づく発掘調査技術と報告書作成のノウハウを、官民学が一体となり次世代に引き継ぐことが、今後の埋蔵文化財の保護と活用、そして考古学の発展につながると確信しております。



財保護協会を設立しました。2007年からは資格制度や調査士・士補（現在延べ約750名）を対象とした技術研修を実施し、埋蔵文化財保護に資する取り組みを行っています。この資格制度は、責任ある調査技術者の資格を顕在化し、遺跡の記録保存を全うできる人材の育成を目的としております。





発掘調査から報告書刊行までの流れ

埋蔵文化財包蔵地において、開発計画が生じた場合に、地方公共団体が試掘・確認調査を行います。その結果に基づいて、調査対象範囲や調査期間・経費などが算定され、記録保存を目的とする本調査が実施されます。発掘調査は考古学的な手法によって実施され、測量と写真撮影による記録や出土遺物の取り上げを行います。

発掘の後には、記録類や出土遺物を持ち帰り、報告書を作成します。記録図面類は整理して報告書掲載図面を作成します。出土遺物はまず洗浄・注記をし、分類・選別、接合・復元、実測、トレース、拓本、写真撮影をします。これらを総合的に検討しながら原稿を執筆します。その後、編集作業を経て印刷所に入稿し、報告書を刊行します。

発掘調査



表土はぎ



遺構確認



遺構調査・測量



遺構実測



遺物実測

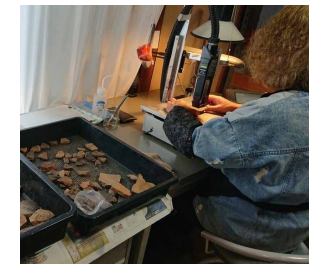


遺物取り上げ

資料整理



洗浄



注記



分類・選別



接合



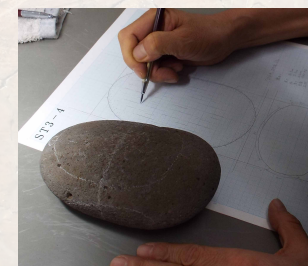
復元



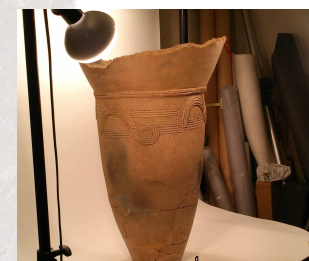
拓本



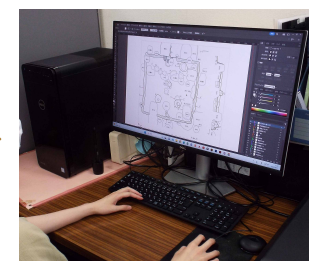
実測



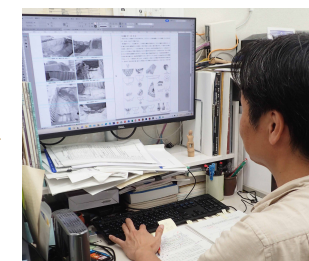
報告書作成



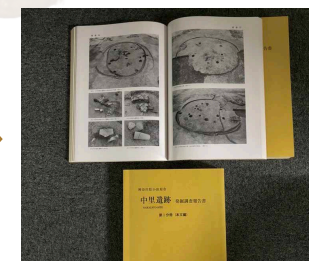
写真撮影



図面トレース

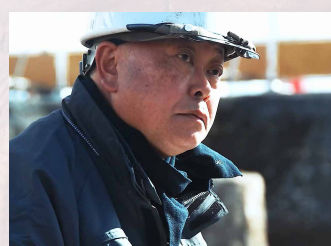


執筆・編集



製本

社員紹介



調査研究課長
小山 裕之
1988年10月入社

知的欲求は人間の本能なのです

大学では法学部だったのですが、その当時に考古学研究会サークルに所属しており、サークルの顧問の先生に紹介いただいて入社しました。考古学について興味は元々持っていたのですが、趣味として楽しんでいた程度でした。しかしサークルでの活動を通じて知的欲求を満たしてくれる考古学調査は、天職なのではないかと感じるようになっていきました。この仕事の醍醐味は「恐らくこの遺構の作りであれば、このあたりからはカマドがあるのではなかろうか？」などと想定しながら発掘を進めていくことに面白味を感じます。実際に自分が想像した通りの遺構や遺物が出土すると、今までに培ってきた知識の裏付けが取れたような気持ちになり自信につながっていきます。小田原城関係の調査に永年携わってきましたが、東側エリアの城下町の状況のあり方がある程度解明できたことが思い出深いですね。皆さん考古学が好きで好奇心旺盛な方が多いです。和気あいあい仲良く仕事を進めています。この仕事の辛いところは、外仕事なので体力勝負なところですかね。特に夏場の暑さです。休憩多めでアイスを食べながら調査しています（笑）。好奇心旺盛で、周りの調査作業員や全体の工程のバランス感覚を持ちながら仕事にあたれることがこの仕事では大切です。しかし何より重要なのは「何かを知りたい」という知的欲求心を強く持っておられることです。そのような方にはピッタリの仕事だと感じます。



主任研究員
坪田 弘子
1998年4月入社

ある学芸員さんとの出会いが人生を決めた

大学時代の恩師が玉川文化財研究所の当時の社長と研究仲間であったことがきっかけで、先生に紹介していただいて入社しました。私は調査員として現場に出たり、発掘したものを整理して報告書を作成しているのですが、子育ての関係もあって育児休暇を2人分取らせてもらい、そのあとも時短勤務をさせてもらうなど融通して頂きました。そのような経緯もあり他の調査員さんよりも本社にいた時間が長く、調査報告書をまとめていることが多いです。小学校6年生の時に父と一緒に国立博物館に行ったときに縄文時代の特別展を開催しており、展示してあった土偶の足の指が6本あったことを父と「なんでだろう？」と話していました。その時に、学芸員の方が細かく説明してくれたことがきっかけで縄文時代に興味を持つようになりました。それが考古学の道へ進むことを決定づけた瞬間でした。好きな遺跡の調査をしたり、手元に土器があるなかで報告書を書いたりしているので、毎日本当に楽しいです。育児休暇や時短勤務も取りやすい環境を用意していただけたことには感謝しています。会社の雰囲気はみんな非常に仲が良く、考古学が好きな者どうしなので遺跡などの話で盛り上がりたり、飲みに行く機会も多く、仕事時間外でもコミュニケーションをとって楽しく仕事をしています。とにかく遺跡が好きなのは非常に向いている仕事だと思います。



主任研究員
小森 明美
2006年8月入社

難しさの中にやりがいを感じます

学生時代に大学で考古学を専攻していて、その当時に玉川文化財研究所でアルバイトをしておりました。入社決め手となったのは実際に発掘などを体験し、面白さを感じたことです。初めて行った現場では、先輩が何をしているのか分からなかったのですが、少しずつ自分が分かるようになってくると毎日が新鮮で楽しかったことをよく覚えています。この仕事の楽しさは、発掘現場に立って現場ごとや年代ごとで異なる遺構や遺物が出土して、それがどういったものなのか、どのように調査に取り組んだら良いのかなどを考えながら進めていくことです。自分が担当した遺跡については人員の配置や進捗管理を行い、現場をやり切った時には大きな達成感を感じます。会社の雰囲気はみんな仲が良く、思ったことも素直にお互いに伝えられる信頼関係が構築できている点が当社の魅力だと思います。思い出に残っている現場は貝塚を調査した時です。普段の遺跡では腐ってしまうような遺物が発掘されたりと興味深い現場でした。遺跡の調査とは言い換えると遺跡を壊している作業です。その遺跡が何であるのかどんなものであるのかを全力で解き明かしていかないと消えていってしまうものなので、一回限りの調査に対しても悩みながら取り組んでいくことに難しさも感じますがやりがいも感じます。自分で積極的に物事を考えられる方、主体的に動ける方が向いている職種だと思います。



主任研究員
伊藤 貴宏
2009年4月入社

歴史を解明する一端を担える仕事

元々は歴史がそこまで好きだったわけではないのですが、学生時代に博物館の展示を見た時に「歴史っておもしろそうだな」と思い大学の史学科を受験しました。その中でも、直接モノを見ながら考えることができる考古学を専攻して、そのまま考古学にのめり込んだことがきっかけで入社に至りました。埋蔵文化財調査は工事の前に行う調査なので期間や予算が決まられています。そのなかで調査を行うので調整や進捗管理などが大変かなと感じます。そんなに出土しないだろうと思っていた発掘現場で大量の遺物が出てくると大変ですが、やりがいも感じます。掘ってみないとわからないので「だろう」と決めつけた予測をしないこと、柔軟性を持って発掘を進められる方が向いていると思います。

主要な遺跡発掘調査歴

1980

- 1980 向台遺跡 (東京都町田市)
- 1981 山崎北遺跡群 (東京都町田市)
- 1981 三輪南遺跡群 (東京都町田市)
- 1981 月見野上野遺跡 (大和市)
- 1981 すぐじ山下遺跡 (東京都町田市)
- 1982 県営岡田団地内遺跡 (高座郡寒川町)
- 1982 大入遺跡 (伊勢原市)
- 1983 長堀南遺跡 (大和市北部処理場) (大和市)
- 1983 峯遺跡群 (横浜市)
- 1983 東大竹遺跡群 (伊勢原市)
- 1984 殿屋敷遺跡群C地区 (横浜市)
- 1984 上行寺東やぐら群遺跡 (横浜市)
- 1985 南八王子地区遺跡群 (東京都八王子市)
- 1986 三枚町遺跡 (横浜市)
- 1986 上品濃遺跡群 (横浜市)
- 1987 柄沢地区遺跡群 (藤沢市)
- 1987 下森鹿島遺跡 (相模原市)
- 1988 蔵屋敷遺跡 (横浜市)
- 1988 羽沢大道遺跡 (横浜市)
- 1988 南広間地遺跡 (日野バイパス万願寺地区) (東京都日野市)
- 1989 多摩川台古墳群 (東京都大田区)
- 1989 今田遺跡 (藤沢市)
- 1989 環 8 光明寺地区遺跡 (東京都大田区)
- 1989 田名塩田地区遺跡 (相模原市)

1990

- 1990 上荻野堀米遺跡 (厚木市)
- 1991 中里遺跡 (小田原市)
- 1991 観福寺北遺跡群関耕地遺跡 (横浜市)
- 1991 峯ヶ谷戸遺跡 (厚木市)
- 1991 豎台遺跡 (稲城市)
- 1991 杉崎廃寺跡 (岐阜県飛騨市)
- 1992 稲荷台地遺跡群 (藤沢市)
- 1993 山王平遺跡 (相模原市)
- 1993 阿久和宮腰遺跡 (横浜市)
- 1993 小田原城三の丸藩校集成館跡第Ⅲ・Ⅳ地点 (小田原市)



大和市「上草柳遺跡群大和配水池内遺跡」
後期旧石器時代、1997～1998年調査



小田原市「羽根尾貝塚」
縄文時代前期、1998～1999年調査
(出土品は2004年2月に神奈川県重要文化財に指定)



横浜市「阿久和宮腰遺跡」
縄文時代中期、1994～1995年調査



伊勢原市「神成松遺跡」
縄文時代中～後期、1990年調査

- 1993 成瀬第二地区遺跡群 (伊勢原市)
- 1993 羽根尾横穴墓群と周辺遺跡 (小田原市)
- 1994 恩名沖原遺跡 (厚木市)
- 1994 御組長屋遺跡第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ地点 (小田原市)
- 1994 香川・下寺尾遺跡群 (茅ヶ崎市)
- 1995 沢狭遺跡 (平塚市)
- 1995 早川城山地区遺跡群 (綾瀬市)
- 1996 小田原城三の丸元蔵堀第Ⅲ・Ⅳ地点、加藤直衛邸跡第Ⅰ地点 (小田原市)
- 1996 南原遺跡 (横浜市)
- 1997 米軍キャンプ座間地内遺跡 (座間市)
- 1997 上草柳遺跡群大和配水池内遺跡 (大和市)
- 1997 田名塩田遺跡群 (相模原市)
- 1997 真田・北金目遺跡群 (平塚市)
- 1998 中里遺跡 (小田原市)
- 1998 久原小学校地内遺跡 (東京都大田区)
- 1998 羽根尾貝塚 (小田原市)
- 1998 小茂根小山遺跡 (東京都板橋区)
- 1999 万田遺跡 (平塚市)
- 1999 千年伊勢山台遺跡 (川崎市)
- 1999 北部第二(三地区)土地区画整理事業区域内遺跡群 (藤沢市)

2000

- 2000 多摩川台古墳群 (東京都大田区)
- 2000 本殿山遺跡 (県営担い手育成畑地帯総合整備事業地内) (茨城県総和町)
- 2000 大宰府条坊跡ⅩⅧ(地区道路整備事業) (福岡県太宰府市)
- 2000 由比ヶ浜中世集団墓地遺跡 (鎌倉市)
- 2000 雪ヶ谷貝塚 (東京都大田区)
- 2001 長ヶ坪遺跡第1次調査 (福岡県太宰府市)
- 2002 六本木プロジェクト埋蔵文化財支援工事 (東京都港区)
- 2002 桂台北遺跡 (横浜市)
- 2003 万田貝殻坂貝塚 (平塚市)
- 2003 日焼遺跡第3次・前田遺跡第12次 (福岡県太宰府市)
- 2003 千年伊勢山台遺跡 (川崎市)
- 2004 東池袋遺跡 (東京都豊島区)
- 2004 上野遺跡6次・7次調査 (宮城県仙台市)
- 2004 御組長屋遺跡第Ⅴ地点 (小田原市)
- 2004 大宰府条坊跡233次・234次・244次 (福岡県太宰府市)
- 2005 平沢同明遺跡 (2004-04,2004-05地点) (秦野市)



厚木市「宮の里遺跡」
弥生時代～古代、1987～1988年調査



小田原市「羽根尾横穴墓群」
6～7世紀、1994年調査



平塚市「沢狭遺跡」1号祭祀遺構
古墳時代中期、1995～1996年調査



相模原市「田名塩田遺跡群」谷原12号横穴式石室
古墳時代後期、1993～1994年調査

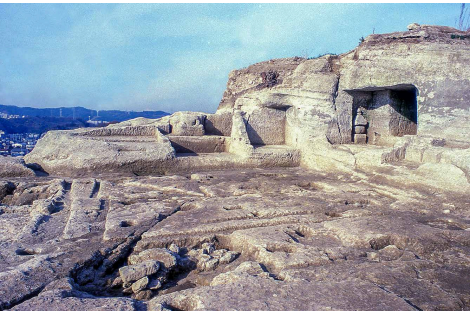
- 2005 下組東貝塚 (横浜市)
- 2005 大宰府条坊跡252次 (福岡県太宰府市)
- 2005 小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点・大久保弥六郎邸跡第Ⅲ地点 (小田原市)
- 2006 影向寺台遺跡 (川崎市)
- 2006 寒川神社遺跡 (高座郡寒川町)
- 2006 駒首潟遺跡第3・4次 (新潟県新潟市)
- 2007 大野田古墳群第13次・14次 (宮城県仙台市)
- 2007 南山東部遺跡 (稲城市)
- 2008 北金目大久保遺跡 (平塚市)
- 2008 国府台遺跡第120地点調査 (千葉県市川市)
- 2008 増島城跡発掘調査 (岐阜県飛騨市)
- 2009 郡山遺跡第190次調査 (長町八木山線) (宮城県仙台市)
- 2009 大膳野南貝塚 (千葉県千葉市)
- 2009 北金目塚越遺跡第3地点 (平塚市)

2010

- 2010 上野遺跡第10次発掘調査 (宮城県仙台市)
- 2011 大宮腰遺跡第9地点 (千葉県市川市)
- 2012 久野下馬道上遺跡第Ⅲ地点 (小田原市)
- 2012 下北原遺跡第3次 (伊勢原市)
- 2012 大宮腰遺跡第9-4地点 (千葉県市川市)
- 2012 吹上原遺跡 (埼玉県和光市)
- 2012 上町遺跡第27次調査 (岐阜県飛騨市)
- 2013 七ノ域遺跡第7地点 (平塚市)
- 2013 船久保遺跡第1～5次調査 (横須賀市)
- 2013 天神山遺跡第Ⅲ・Ⅳ地点 (小田原市)
- 2013 小田原城三の丸元蔵跡第Ⅱ地点3次、元蔵堀第Ⅲ地点2次 (小田原市)
- 2014 小田良遺跡群 (稲城市)
- 2014 諏訪前A遺跡第12地点 (平塚市)
- 2014 西富岡・長竹遺跡 (平塚市)
- 2014 北仲通一丁目遺跡 (県庁新庁舎改修工事) (横浜市)
- 2014 小田原城三の丸大久保弥六郎邸跡第Ⅶ地点 (小田原市)
- 2015 北部第二 (三地区) 土地区画整理事業地内遺跡群 (藤沢市)
- 2015 小田原城三の丸大久保弥六郎邸跡第Ⅷ地点 (小田原市)
- 2015 墨染遺跡 (平塚市)
- 2015 下飯田林遺跡第2・3地点、中ノ宮北遺跡第2・3地点 (横浜市)
- 2016 小田原城三の丸元蔵堀第Ⅱ地点、城下日向屋敷跡第Ⅰ地点 (小田原市)
- 2016 西富岡・長竹遺跡第3次 (平塚市)
- 2017 小田原城三の丸元蔵跡第Ⅵ地点 (小田原市)
- 2017 中野中里遺跡 (津久井郡)



岐阜県飛騨市「杉崎廃寺跡」
8世紀、1991～1995年調査
(岐阜県指定史跡)



横浜市「上行寺東やぐら群遺跡」
14～16世紀、1984・1986年調査



小田原市「大久保弥六郎邸跡第Ⅲ地点」
16世紀代、2006～2007年調査



藤沢市「下土棚下地区第1地点」1号防空壕
近代、2009年調査

- 2018 西富岡・長竹遺跡第5次、上粕屋・石倉下遺跡第2次 (平塚市)
- 2018 平塚城跡第2地点 (平塚市)
- 2018 小田原城三の丸大久保弥六郎邸跡第Ⅱ地点 (小田原市)
- 2018 御幣山遺跡第9次 (藤沢市)
- 2018 大庭城跡第23次 (藤沢市)
- 2019 新町遺跡第10～13地点 (平塚市)
- 2019 七ノ域遺跡第10地点 (平塚市)
- 2019 新井城跡 (東京大学 (三崎) 総合研究棟) (三浦市)
- 2019 富士塚表谷遺跡 (横浜市)
- 2019 河原口坊中遺跡第9次 (海老名市)

2020

- 2020 山王B遺跡 (平塚市)
- 2020 三田林根遺跡第2～4地点 (厚木市)
- 2020 新道遺跡第1・2次 (大和市)
- 2021 久野山神下遺跡第Ⅸ地点第2次、久野多古境遺跡第Ⅹ地点 (小田原市)
- 2021 構之内遺跡第7地点 (平塚市)
- 2021 当麻遺跡第3地点 (相模原市)
- 2021 久野北久保上遺跡第Ⅱ地点 (小田原市)
- 2021 河原口坊中遺跡第12次 (海老名市)
- 2022 構之内遺跡第9地点 (平塚市)
- 2022 久野下馬下遺跡第Ⅶ地点 (小田原市)
- 2023 河原口坊中遺跡第13次 (海老名市)
- 2023 新道遺跡第3次 (大和市)
- 2024 三田林根遺跡第5地点 (厚木市)



厚木市「上荻野堀米遺跡」出土土器中空把手



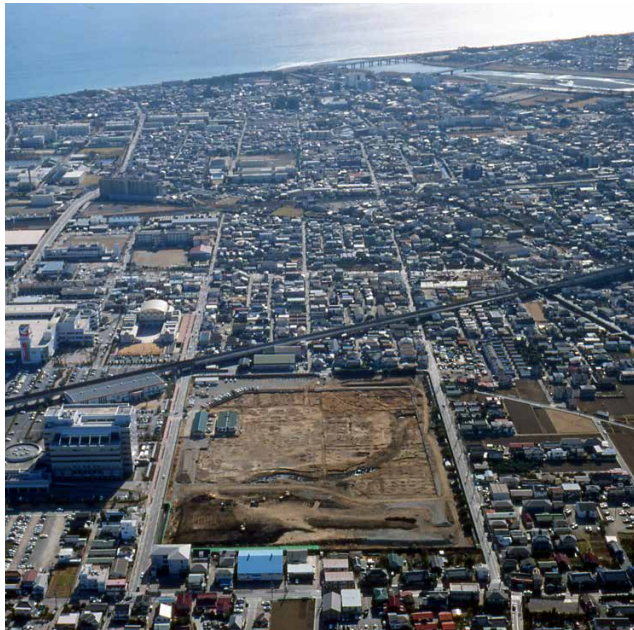
横浜市「観福寺北遺跡群関耕地遺跡」出土磨製石斧



横浜市「師岡打越遺跡」出土壺形土器



平塚市「沢狭遺跡」出土石製模造品



株式会社 玉川文化財研究所

〒 221-0822

横浜市神奈川区西神奈川一丁目 8 番地の 9

045-321-5565 (代表)

045-321-5855 (FAX)

e-mail : tamagawabunkazai@tamabunken.com

URL : <https://tamagawabunkazai.co.jp>

